夕刊
九月二十二日發行
定價一ヶ月金六拾五錢　郵税金五錢
磐城新聞社
福島縣平町大字平字柏木町
電話平局五六四番
（日曜祭日翌日休刊）

漫筆餘瀝

小野生

▽金成氏の側面觀

九月十日執行の貴族院による所謂多額納税者互選に當選して、貴族院議員となり終ふせた、本郡の産むだ好運兒として、自他共に免す金成君は、見ようによつては僥倖にも觀ゆるだらうし、又當然の歸結だとも見る事が出來る。

僥倖か、當然かは其吟味こそ何れでもよいが、吾人が常に、實業家なり、政治家なりを眺めて、金成君の容易に兩者の共有性に點染せざる確乎たる信念に燃る一事は、君をして今日の成果を收めしめたるものと斷案を下して憚かちざるものである。

この點から見て君の出發點から見て、實にソツかない、銀行を興して其專務となり、電氣事業を興して其社長となり、之れが君の直系的に渾身の力を注ぎし、會社であるが、從系的には東部電氣の重役、福島農工の重役、其他知名の會社に於て君の名の列ねぬものは絶無であらう。實業方面から見て君の經歷には必らず一日の長がある。

政治方面に見ても縣會に三期常に縣議として重きをなし、衆議院議員に擬せられし事幾回、其順潮に進むだ經歷にも必らず一日の長がある。

殊に君の身邊を繞る、先輩なり後輩なりの多くは、或は實業方面に其名を成せるか、或は政治方面に其手腕を認めらるるかに至れば、君に何時しか其間に斷絶し、君の圓滿を欠く多事主義を謳歌し、これが寧ろ此種の階級に與へられたる特權かの如く心得、傲然として他を省みざるのが、普通の所謂多額納税者互選に通化して居る現代に、君の品性にはこの油斷がない、この點染がない、是亦決して木張漢ではない筈だが、周圍の氣流に溺れずに、然かも巍然として一回の辱行なく汚名なきに至つては之を知らずして爲さざるのではなく、之を知悉して爲さざるに至つて、尚一層の高風を持し、潔清の尤も崇高なるに敬服するものである。

大正九年、殊に關東大震災以來、更に昭和三年財界一大恐慌來、までに、洋の東西を問はず銀行の休業、一部會社の破綻等、踵を接して襲ひ來たる裡に、君の主宰する會社のみは泰然たる事實嶽の如く終始一貫せる方針の許に微動だもせずに堂々光榮を擧げて居る。

この一事實に君の崇高にして確乎不拔の洗練された人格の反映であると云ふも誰か異論を挿むものがあらうか、代議士にしてもそうであるデモ議員か、一點成金に夢見て能く淨海を攪亂せむとするもの往々皆然らむとしてゐる。貴族院の名現代には相應はしからざる人格の反映であると云ふものの、名は体を現はすもので、所謂上院にある以上當然の事である。

兩院制度の實施以來多額議員は中通方面の獨占場で常に對岸の火事位に見て來た、然るに今日其對岸であつた出來事が、目前に展開され、そして最初の貴族院議員として、送り出す其の人が、手腕、力量、經歷而して其品性に於て第一人者たる金成通君を當選せしめた事は、他に追從の出來ぬ美點として、誇るに足るべき幾多の要項を具備して居る。

君は刻苦精勵自己の經營せる諸會社をして人後に立たしめざる、其誠と熱とは延いて今後の舞台に應用さるる事は勿論であらう事を信ずるものであつて、君の今日既にこの覺悟ある事をも察するに餘りある。乞ふ幸ひ健在にして、時恰も國内困難の際に遭遇して居るのである以上、國家の爲めに自愛自重を祈つて筆を擱く事にした。多謝々々。

時代警鐘

○千の假定は一つの眞理を作らず……（伊太利俚諺）

人は須らく是れぞ自己の天職であるとの確信あるものを選びて全身の力を傾注し其の藝を一藝一能たるべきである……

秋季皇靈祭

市川健次

今日は
秋季皇靈祭で
軒に日の丸
立てました

垣の
コスモス　菊の花
空も青々
晴れました

學校も
今日はお休みで
これから前田の
稻刈りに

畠の粟を
たべながら
雀もチョンチョン
樂しさう。

小ぐも（童謡詩）

大方勝義

裏のお池の
紅葉の木
小さい小ぐもが
巣くつてた

小ぐもは風が
吹く度びに
ゆらり〳〵と
搖れていた

丸いお山に
日が沈み
小ぐもが宿へ
歸る頃

空には星が
光つてた

希望（詩）

磯上六花

俺は鈍百姓だ
毎日〳〵馬糞にまみれながら
野良で働く俺にも
希望は有るのだ

拈華微笑

◇一時的の連鎖が恒久だ、何でも結構、姦淫量の增加は嬉しい

◇久濶で『積極進取』の話が聽け

◇晩秋蘭依然勢之で稻が萬作と來たらお百姓さんどうする〳〵

◇秋低獲馬、先づ取る。來月初旬政友會の演説會

◇あすの日曜は潰れらしい

◇内紛ヤツト鎮火、先で小名濱消防てゝゐたが夜になると何處か酒を持て來てお柳を脅かし付ては酌をさせ、車座になつての！、大騒ぎに狂ひ散らしてゐたが漸く醉が廻ると共に、ごろり〳〵河岸に鮪が着いた樣に寢倒れてしまつた。

◇首つ吊りの材料迄低下

たお柳は板戸にもたれたなりにほつと息を吐いた。

『ア、困つた事になつたねゝ今までいろ〳〵に心配したのも水の泡明日大阪へ送られて了へばもうそれつ切りで二度と再び浮ぶ瀬のないのは知れてゐる成らう事ならおゆう樣や弓太郎さまの成行、大鹽樣と若樣の生死の程も突き止めて内々に三好屋の御隱居と御相談申した上此世においで遊ばされぬものと分つたなら、切めて石塔の一つも建てゝ進せて……』

『もう九ッ頃かしら……おゝあの鐘がそうだ』

吹田の護國寺あたりで撞き出したのか、ボーンと風に載つて來た幽寂の音が闇から闇へ消えて了ふ、と、ふつとお吉のことが胸に浮かんで思はずぞく〳〵と身の何處でかぎち〳〵と齒の嚙む聲が聞えた。

『あゝ可厭だ、いつも今頃になるとあの時の姿が……ア、可厭だ、南無阿彌陀佛

鼠の糞だらけの壇の上に殘り少なに燃えつくして沈んだ光は暗灰色の堂の中を夢の樣に照してゐる外の立木をざわ〳〵と搖がして忙はしげに奔つて行く夜風、何處でかぎち〳〵と齒の嚙む聲が聞えた。

『あゝ可厭だ、南無阿彌陀佛』

『えつ！それでは格さまもあなたも御無事で……アノ祝言を……まア……』

驚いてむつくと起揚る途端に忽然として目が覺めた心注くと板壁に凭れた儘の夢！』

『お柳、私はね、少しもお

『あつ、か、か、勘忍して

『あつ、か、か、勘忍して

『あつ、か、か、勘忍して

當面の諸問題を提げ
石城政友同志の會合
來月上旬總會を兼て金成氏の當選祝賀
引續き議會報告大演說會

政友會石城郡部會では昨二十一日午後一時から倶樂部に於て各幹部會合協議の結果來月初旬を期し部會總會を兼ね金成多額納稅議員の當選祝賀會及鈴木代議士の議會報告演說會を開催する事に決定したが當日の總會に於ては

木村部會長、山崎、古川副會長、井上幹事長、金成上院議員、鈴木、佐藤兩代議士

を詮衡委員として役員改選を行ふ筈で尙ほ當日應援の本部特派員は鈴木代議士により夫々近く決定すると

晩秋繭依然騰調
昨日の四倉市場取引
最高四十七圓十錢

晩秋繭價の高低に就ては地方一般養蠶家が片唾を呑んで其の成り行きを注視してゐるが昨二十一日の四倉市場取引は出廻り百六十八貫、最高四十七圓十錢、最低四十圓六十錢、買馴れ四十四圓五十錢

で前日に比し引續き一圓十錢の騰貴を見せ市場に一種の活氣を漂はしてゐる。

。。。